

避難所運営マニュアルには必要な役割や手順、レイアウトなどが書かれているんだよ！

地域防災推進課 坂本さん

施設ごとにレイアウトは違います。皆さんが避難しようと思っている施設では、どうなっているのか、「避難所運営マニュアル」で事前に確認しておきましょう。ただし、このマニュアルも万能なものではありません。被害の大きさ、避難状況、時間の経過に合わせてその時々で対応しながら、皆さんでより良い生活環境をつくるのが大事です。

いろいろなスペースが必要なんだね。



居住スペース



基本的には体育館のような大部屋を居住スペースとします。物資が届くまでは、ビニールテープなど、避難所に置いてある物品を活用して、各自の居住エリアが平等に確保できるように設置します。

配慮スペース

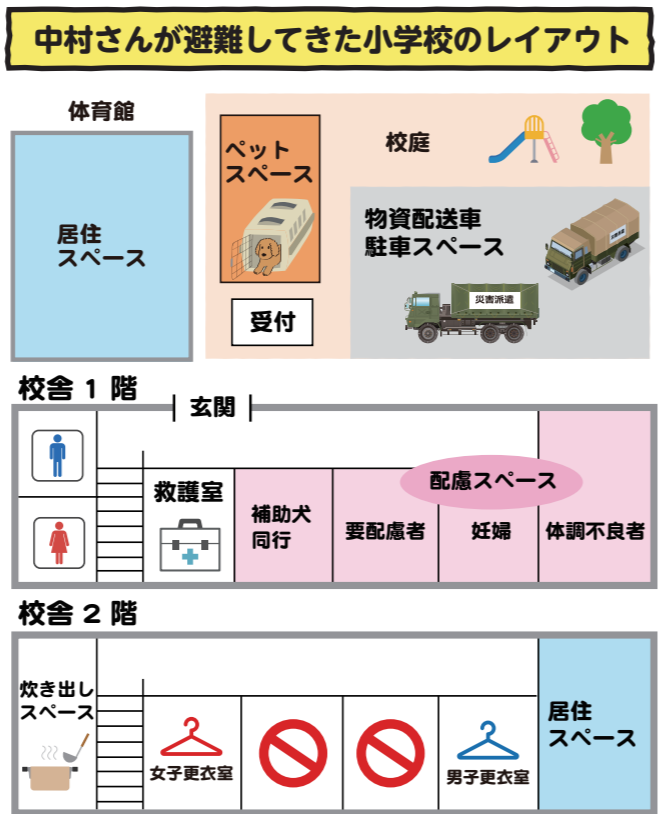


身体の状況や乳幼児を連れているなどのさまざまな事情により、大部屋での生活が困難な方や特別な支援が必要な方のために、配慮スペースを設置します。

ペットスペース



ペットはケージに入れるなどして、屋外避難が基本です。一緒に避難することはできませんが、アレルギーなどの観点から、居住スペースと一緒に過ごすことはできません。また、お世話は各自で行いましょう。



災害に備えるには、いろいろな情報を知っておくことが大切です。命を守るために、そしてみんなで助け合うために、できることから始めましょう。



大規模災害に備えて今できる3つのこと

避難経路を確認しよう

命を守るために緊急避難場所までの経路を決めておくのはもちろん、危険が去った後、緊急避難場所から避難所へ移動するときの経路も決めておきましょう。

緊急避難場所や避難所はこちら▶

マニュアルを確認しよう

施設ごとの避難所運営マニュアルには、細かい手順や運営のときに気をつけることが書かれています。お近くの避難所のマニュアルを確認しておきましょう。

最新マニュアルはこちら▶

訓練に参加しよう

地域ではマニュアルを基に避難所の開設や運営の訓練を行っています。自分の地域の訓練に参加し、実際の避難生活がどのようなか体験してみましょう。

防災カレンダーはこちら▶

詳細 この記事についての問い合わせは 地域防災推進課 ☎823-9040

避難所運営

大規模災害が起こったら？



自宅が被災し、避難を余儀なくされた中村さん。近所の小学校に避難しようかと考えている。



地域防災推進課で働く藤本さん。自主防災組織の活動をサポートしている。

南海トラフ地震が30年以内に発生する確率は70～80パーセントといわれています。いざ大規模災害が起こったとき、命を守った後、皆さんがどんな生活を送ることになるか、想像してみませんか。

1 揺れは収まったけれど、家の中はぐちゃぐちゃ…。これじゃあしばらく住めないなあ。

2 とりあえず、近くの避難所に行って、市役所の人に来るのを待ってみようかな。

3 台風のときなどと違って、大規模災害時は市役所の職員も被災するので、すぐに避難所に駆け付けることはできません!!

4 じゃあ、誰が避難所を準備したり運営したりするんだ!?

5 避難所はあらかじめ準備してあるマニュアル(※)を参考に役割分担しながら、みんなで助け合って開設・運営することになります。

6 でも子どもが一緒だから僕は運営に参加するのは難しいかも…。

7 誰も運営に参加しない状態では救援物資が届かなかったり、病気が流行することも…。それぞれ事情があるのは当然なので、お互いに可能な限り協力しながら、「できる人ができることをする」ことが大切です!

8 大規模災害にあったとき、まず避難するのは「緊急避難場所」です。「避難所」との違いを事前にチェックしておきましょう!

**緊急避難場所** 津波などによる危険が迫っているとき、命を守るために緊急かつ一時的に避難する場所。(例) 津波避難タワー、津波避難ビルなど

**避難所** 災害が起こってから一定の時間が経ち、危機が去った後に帰宅できないなど、避難が長引く場合に緊急避難場所から移動して滞在・生活する施設。(例) 小・中学校、ふれあいセンターなど